

木原 均 博士と探検

フィールド科学の先駆

1938

内蒙古の 生物学的調査

動植物の生態調査



内蒙古の大草原



蒙古羊を手に

未知の自然に生物学、地理学、考古学、経済学、医学の面から科学のメスを入れた京都大学の学術調査。調査結果は、『内蒙古の生物学的調査』と題して、農業植物、気候と水、動物

採集品目録、家畜、森林樹種の分布、医学上から見た蒙古、内外蒙古探検略史、旅行記の項目にまとめられて出版、学術探検の古典となった。

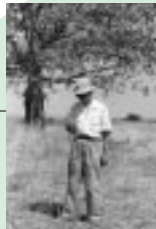
1955

カラコルム・ ヒンズークシ 学術探検

コムギの祖先を訪ねて



小麦の山からタルホコムギを探す



タルホコムギ発見



京都大学による戦後初の学術探検。植物学、地質学、人類学からなる総合的な科学探検で、フィールド科学の先駆をなした。木原隊長は、研究室で出した結果が自然界でも起ったか

どうかを現地で確かめ、パンコムギの祖先種とその発祥地をつきとめた。探検の記録は映画『カラコルム』となって好評を博した。



カスピ海のほとりで

1959

シッキム・ アッサム 植物探検

イネの起原を探る



イネの起原とゲノム分化に関する研究のため、アジア稲の発祥地と考えられるシッキム・アッサム地方を探索し、約300種の在来種や野生稲を収集した。その記録と系統は、イネの研究に活用され、さらに、「照葉樹林文化論」などの新しい民俗植物学の世界を生み出した。

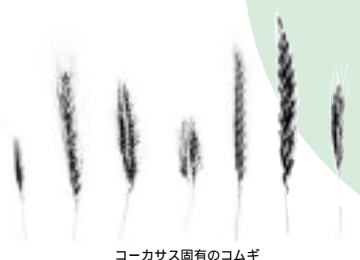


アッサムで採集した浮稲

1966

コーカサス地方 植物探索

コムギの起原を求めて



コーカサス固有のコムギ



コーカサス地方はコムギの種類が世界でも豊富で、ここにしかない固有種もある。京都大学の3名とともに探索。目的はコムギ全体の起原に関する成果をまとめることにあった。

特にティモフェービ小麦の起原に期待をかけ、その野生種であるアララティウム小麦と固有種ペルシウム小麦の採集に成功した。



アララト山の裾野で

1973

南米スリナム 植物探索

カワゴケソウ科植物の調査



開花の翌日実を結ぶという特異な植物カワゴケソウに着目。1973年にヴェントによって発見された日に合わせて現地へ赴き、その生態を観察、標本と種子を採取した。この調査は、日本のカワゴケソウ(鹿児島)の発見者今村駿一郎博士の提唱によるもので、カワゴケソウの研究により、植物生理学、遺伝学の新しい可能性が拓かれると期待した。



開花するカワゴケソウ